

## ～ パネリスト紹介 ～

\*\*\*\*\*

**白仁田 裕二(居酒屋 鉄丸ぎょうざ「まんまる」社長)**

**まんまる** : (<http://www.m-maru.jp/index.html>)

“リサイクル野菜(元気野菜)”ってご存知ですか?まず無農薬であるという事はもちろん、近くで育った旬の露地もの、つまり自分と同じ季節、気象条件の中でたくましく健康に生き抜いた新鮮ないのちか、どうかということです。食の安全性が叫ばれ、農薬の危険性に強く目が向けられていますが、もっと強調したいのは、農薬がないと生きていけない野菜と、農薬なしでも病害虫にかからず健康に生きられる野菜の生命力の重大な違いなのです。

まんまるでは、料理一品一品に気を配り、品質管理、及び水・塩も含めた全ての素材にこだわり、「楽しく、美味しく、健康的に、愛情いっぱい、真心のこもった商品・サービス・お店づくり」を目指しています。

\*\*\*\*\*

**宮崎 吉裕(「田主丸町緑の応援団」団長)**

**田主丸町緑の応援団** :

植木・苗木産業において田主丸町は300余年の伝統があり、「ふるさと創生事業」をきっかけに、沙漠開発研究所の遠山正瑛氏の緑化講演会を開催。その後、「世界の緑化推進」や「地球の環境保全」に貢献する必要性を感じ、「緑で国際化を目指すまちづくり」を基軸とする「緑化推進支援事業」を掲げ、平成4年より沙漠緑化派遣事業を開始しました。平成17年2月、田主丸町が久留米市と合併したことを機に、派遣経験者からなる市民団体「田主丸町緑の応援団」に事業が移行されました。緑の応援団は平成8年に結成し、沙漠緑化への派遣や植樹のパネル展、国内での植樹活動、小中学校での講演などの活動を行っています。

\*\*\*\*\*

**吉田 茂(久留米市環境部環境政策推進課長)**

**久留米市環境部 環境政策推進課** :

久留米市は、「久留米市環境基本計画」に掲げる望ましい環境像である、「持続的発展が可能な環境共生都市・久留米」をめざして、3R(排出量の抑制【リデュース】、再利用【リユース】、再生利用【リサイクル】)をはじめ、ごみ減量の推進を中心とした循環型社会の実現や、環境啓発や環境学習をはじめ、日常生活や事業活動における環境に配慮した行動の推進を中心とした地球環境の保全などに配慮したまちの実現のために、市民や事業者と協働して様々な環境施策に取り組んでいます。

\*\*\*\*\*

**竹内 よし子(NPO 法人 ESD-J 副代表理事)**

**ESD-J** : (<http://www.esd-j.org>)

ESD-J(「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議)は、NGO/NPO/個人によるネットワーク団体。2003年6月に設立され、2005年末時点で、団体会員95団体・個人会員216名により構成されています。行政による市民参加型のまちづくりや、教育・学習計画の策定支援、人権・環境・開発・ジェンダー・平和・青少年などの教育を担当している各地域のキーパーソンを中心に、ESDの推進につながる「政策提言」「情報共有」「地域ネットワークの形成」「国際ネットワークの形成」を展開。国内外で、様々な活動をはじめしています。

\*\*\*\*\*

**池田 真里子((特活)「久留米地球市民ボランティアの会(KOVC)」会員)**

**KOVC** : (<http://blog.goo.ne.jp/kovc>)

KOVCは、地球規模の課題解決のために、国際協力及び環境保全などの地域活動を通して、社会に貢献することを目的とする団体です。1998年より南部アフリカ・モザンビークに久留米市から移譲された放置自転車を整備し、送るといった活動を行ってきました。そんな中、久留米における放置自転車の問題を通して、大量生産・大量消費の社会、環境問題、ひいてはまちづくりに取り組む重要性を実感しています。自分たちが日常で使っているモノに着眼し、自分たちが出来ることを探し、『マイ箸推進活動』を始めました。割り箸の90%以上が中国からの輸入品ですが、中国政府は2008年から日本への割り箸の輸出をストップすると発表しています。2005年、2006年の久留米市主催の環境フェアでは、自分の手の大きさにあった箸を作る、体験イベントを実施。2007年1月には、矢部中学校にて中学生と共にマイ箸作りを行いました。具体的に自分たちが日常で実践できる、環境への取り組み・国際的な課題解決をモットーに今後の活動を発展させて行きたいと思っています。